

貧困者に役立つODAを目指して -対アフリカ協力とアフリカ開発会議- 市民社会からの提言

TICAD市民社会フォーラム 代表
龍谷大学経済学部教授
大林 稔

1

発表の構成

1. TICAD市民社会フォーラムのご紹介
2. 日本の対アフリカ支援について
 - (1) なぜアフリカ支援を増やすべきなのか
 - (2) 日本のアフリカ支援は貧困者を支援しているか
 - (3) 貧困者の役に立つ援助とは
3. TICAD IV(第四回アフリカ開発会議)について
 - (1) 過去と現在のチャレンジ
 - (2) 市民社会からの提案
4. 新しい日本・アフリカ協力の始まりに向けて

2

1. TICAD市民社会フォーラム(TCSF)の ご紹介

3

1.TCSFのご紹介(1/2)

TICAD市民社会フォーラム

【概要】

- TICAD III (2003年) 時に結成
- アフリカの草の根の人々へ届く支援の実現を目指して活動

【活動内容】

- 調査研究と政策提言
 - 『アフリカ政策市民白書』
 - セミナー、シンポジウム等の開催
- アフリカ・日本の市民社会連携を促進
 - 「TICAD IV・NGOネットワーク(TNnet)」事務局
- アフリカ連帯の輪を広げる
 - 「アフリカ2008キャンペーン」事務局

4

1.TCSFのご紹介(2/2)

TICAD市民社会フォーラムの提言

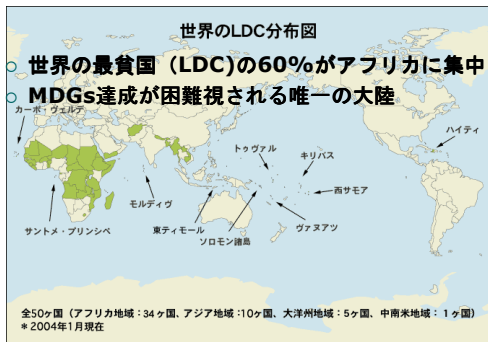
- アフリカ支援の強化
 - 第四回アフリカ開発会議までにアフリカ向けODAを4倍に(対2005年比)
 - ODAのGNI比0.7%目標達成期限を2013年(第五回アフリカ開発会議)に設定
- アフリカ支援の改善
 - 対アフリカODAを、民衆主体の開発支援のために使用
 - 貧困削減を目標にしたTICADを実現する

5

2. 日本の対アフリカ支援について

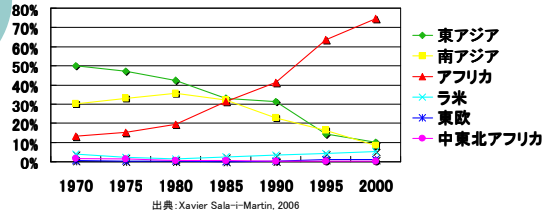
6

アフリカ支援強化は人道の要請



不平等な成長 貧困の悪化と格差を伴う成長

世界の総貧困人口に占める各地域の割合 (1日1.5ドル以下)



- アフリカ全体の貧困者数は2000年で74.5%、約3億人が一日1.5ドル未満で生活している。アジアと正反対の傾向。
- ナイジェリアのような資源国でも07年に人口の35% (約4800万人)が1日1ドル未満の絶対貧困状態。

世界から恐怖と欠乏をなくすよう努めるのは、日本国憲法の理念

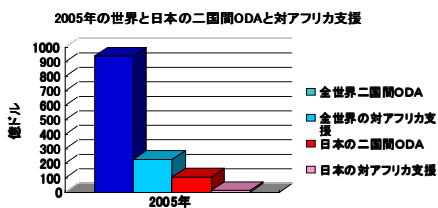
- 日本国憲法は、その前文で日本の理想を掲げ、「**日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。**」と宣言しています。
- その理想の中に、ODAの基礎は明確に次のように述べられています。「**われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。**」

憲法は生きている

- 【資料】2007年度「国際協力/ODAに関する調査報告」【一般の日本国民のODAに対する認識】
- 国民がODAの提供を必要だと感じる分野: 保健医療・災害救援・貧困が、いずれも50%近くの国民がODAの必要性を感じており、上位筆頭に挙がっている。
- このような分野はいずれも、アフリカ地域での課題が大きい。MDGsとの重なりが大きい。

出典: <http://www.apic.or.jp/plaza/odareport.pdf>

日本はアフリカの貧困者をもっと支援できる



- 全世界の二国間の対アフリカ支援は05年で約24%
- 日本のODAのうち、対アフリカ支援は約10%。しかしそのうち無償援助は54%で円借款が46%。無償が激減している。
- 日本が世界のODA全体にしめる割合は約11%だが、アフリカ向けODA全体では僅か4.8%を占めるに過ぎない 11

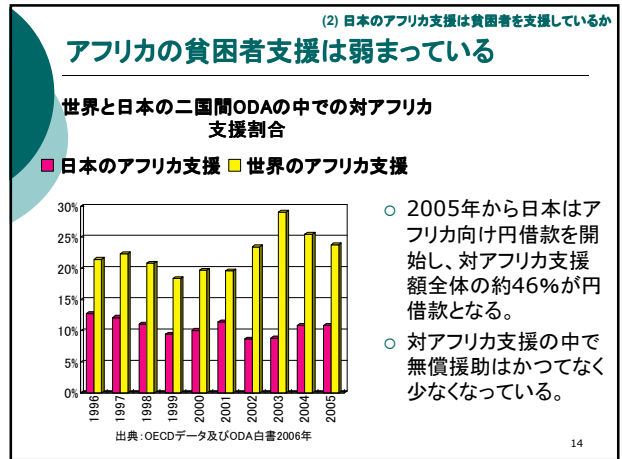
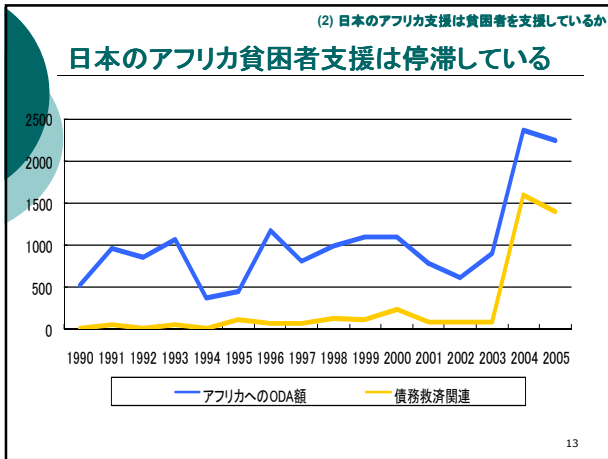
日本のアフリカ貧困者支援は停滞している

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
二国間ODA総額	4,685.24	6,773.20	7,601.10	7,153.50	6,884.60	7,423.90	8,558.60	6,735.60
a. アフリカへのODA額	525.1	957.2	854.5	1,071.50	368.1	451.1	1,172.70	811.2
b. 債務救済関連	-	38.1	-	51.2	6	106.2	67.2	53.8
a-b	525.1	919.1	854.5	1020.3	362.1	344.9	1105.5	757.4

(左下へ続く)

(右上より)

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
二国間ODA総額	8,268.40	10,297.80	8,941.40	7,129.60	6,896.10	9,775.90	12,510.20	15,088.30
a. アフリカへのODA額	986.2	1,091.50	1,091.00	783.1	604	906.4	2,372.80	2,253.40
b. 債務救済関連	128.2	109.1	234.3	71.7	83.2	71.7	1,596.20	1,391.60
a-b	858.0	982.4	856.7	711.4	520.8	834.7	776.6	861.8



(2) 日本のアフリカ支援は貧困者を支援しているか

アフリカ支援を増やすことはできる

- 2005年: イラクー国に支出した援助額は35億ドル(約3千500億円、ほぼ全額がグラント)。対して、対アフリカ援助(約50カ国向け)は11.4億ドル(実際にこの年に抛出されたのは無償5.5億ドル=約600億円)。→比較すると、総額なら3分の1、グラントだけの比較なら6分の1である。
- 東京都の中央環状線高速道路の建設費は約1000億円/1キロ。アフリカ向けグラントの約2年分でも、中央環状線は1キロ造ることができない。

しかし、

日本のODAはGNIの0.17%(07年)、08年政府予算の0.8%、防衛費の14.6%、伸び率は-4%。

15

(2) 日本のアフリカ支援は貧困者を支援しているか

Phantom Aid よりもReal Aidを

- Phantom Aid (幻の援助)とは
 - 貧困削減を軽視し、
 - 効率が悪く、
 - 利己的である(援助国に還流ないしは援助国の利益のため)
- 日本の対アフリカ支援は、Real Aid (真の援助)か
 - 貧困削減が成長重視か
 - 援助調整に消極的
 - グラント部分はタイト

16

(2) 日本のアフリカ支援は貧困者を支援しているか

日本のODAは貧困者から遠ざかっていないか

- 「アジアの成功」はアフリカで再現できるのか
- 円借款から大型経済インフラ建設中心に転換の兆しがある
- 債権放棄の苦い経験を忘れてはならない
- 財政が逼迫してはインフラは生かせない
- 投資の増加は市場規模とガバナンスに依存する

17

(3) 貧困者の役に立つ援助とは

日本のODAはもっと貧困者の役に立てる

- 鍵は日本のODAの中に
 - TCSFには、現場から多くの声が寄せられている
- また、アフリカの貧困者の中に
 - アフリカ市民に力を借りて、住民による日本のODA評価を積み重ねてきた
- 現場の人々の努力が報われる仕組みに変えることが鍵

18

貧困者の役に立つには

- アフリカ支援の目的を貧困削減・民衆のエンパワーメントであると宣言すべき
- 制度を柔軟化すべき
 - スキーム別予算から国別予算へ
 - 真の分権化の推進

→ 第一歩として、パートナーシップ基金の創設を提案する

19

3. TICAD IV(第四回アフリカ開発会議)について

20

TICAD IVのチャレンジ

- 日本とアフリカの新しい関係へ
 - 日本とアフリカの国民が心を交わす場としよう
- 貧困をなくすために議論を
 - アフリカと日本の国民が共有する最大の関心に
- 公開され、市民が参加する会議に
 - ビデオ中継・プレスへの公開
 - アフリカと日本の市民の正式参加

21

市民社会のTICAD IVへの提案

- アフリカ開発を担う人々が参加し、自由に、平等に、創造的に議論を交わし、参加者が世界を変えるための会議へ
- TICADに求められる意志表示
 - ミレニアム開発目標の達成
 - 民主主義の確立
 - 市民社会とのパートナーシップ

22

4. 新しい日本・アフリカ協力の始まりに向けて

23

新しい日本・アフリカ協力の始まりへ

- TICADを新しい日本とアフリカの協力の第一歩へ
- 政治経済的利益のための協力から、人間としての共感に基礎をおく協力へ
- TICAD V(第五回アフリカ開発会議)は協力の主役(政府・企業・市民社会)が自由に議論し、開発を前進させる会議としよう

24